

自炊のすすめ

「自炊」がにわかにな注目をあびている。といっても自分で食事をつくるのではない。本を裁断してスキャナーでデジタル化し、電子書籍を手作りすることだ。

本のとじ目を切り落として 1 ページずつばらばらにしてパソコンにつないだスキャナーで読み知り、電子データで保存して読む。「自炊」とはネット上の俗語で「自分でデータを吸い込む」イメージに「炊」の字をあてたからなど諸説がある。持ち歩きしやすいアイパッドの登場が自炊化を後押しする。・・・毎日新聞 8 月 20 日夕刊

私が自炊によってデータの電子化を始めたのは、ガバナーを終えた 1997 年からですので、日本における先駆者と言えるのかもしれませんが。ロータリー文庫からオーレン・アーノルド著のゴールデン・ストランドを借りて 1 ページずつスキャンして、それを 1 年がかりで翻訳したのが最初の自炊でした。

その後、再三 RI 本部の資料室やロータリー文庫を訪れて、ロータリーの古典を探し出しではそれをコピーして、デジタル化すると共に翻訳を続けました。当時のスキャナーはいわゆるフラット・タイプで 1 ページずつ表裏を返してスキャンしなければならず、当然のことながら本の背表紙をカットして 1 ページずつばらすという発想はありませんでしたから、単純作業の手首の痛みと無為に過ぎる時間との戦いでした。

私のホームページ「ロータリーの源流」を通じてデジタル化した文献の提供をしていて初めて気付いたことは、OCR を使ったテキスト付きの PDF にすることで、コピー・アンド・ペーストしたり、検索機能を使ったり、非常に便利に活用することができることでした。例えばシェルドンの文献を開いて、そこに「He profits」という検索をかけると、その文字が含まれた箇所が即時に出てくるという便利さです。別の例で示せば、シェルドンの文献に「Service above self」のキーワードを入れて検索しても、一か所もヒットしません。すなわちシェルドンは「Service above self」というフレーズを使っていないことが推測できるわけです。そこで、専用ソフトを使って、今まで収録していたすべての PDF をすべてテキスト付きの文に作り直す作業を開始しました。

2007 年の夏、老後の利便性を考えて、40 年住み続けた芦屋を離れて、JR 尼崎駅前の新都心に建設中のマンションに転居することにしました。駅まで 3 分、隣に巨大なショッピング・センターや映画館やレストラン街ができるということですし、マンション暮らしの方がセキュリティーを含めて何かと便利だと考えた上での決断でした。私は最上階からの展望を楽しみにしていましたが、家内は芦屋ブランドから尼崎に変わることにはかなり抵抗があるようでした。

友人のロータリアンに芦屋の家の売却を頼んだところ、思わぬ高値でそれもたった 3 日で話がまとまってしまいました。尼崎のマンションが完成するのが翌年の夏なのでそれまで 1 年もあるので、それまではマンションの近所に仮住まいすることにして、とりあえず引き渡しは半年後に引き伸ばしてもらいました。

そこで大きな問題に直面しました。私が持っているロータリー関係の文献を含めた膨大な蔵書をどうするのかという問題です。ロータリーの文献だけでも、180x180 の本箱 3 つ。その他の蔵書は 3 階の書庫にぎっしり。これをたった 110 平米のマンションに移すことは物理的に絶対不可能ですし、本を処理する決断もつかず、結局、必要な本はすべて「自炊」することを決断しました。

ネット検索で、連続してスキャンできるドキュメント・スキャナーの存在を知り、早速アマゾン経由で購入しました。初めはカッターを使って手作業で本をばらしていましたが、これもネット検索で Made in China の大型裁断機を 7 万円で購入し、これで背表紙を一気に裁断することによって、効率よく作業を進めることができるようになりました。ただスキャナーの紙づまりが再々起こって、ローラーの掃除や交換が頻繁に必要であり、まだまだ開発途上の製品であることを実感しました。もっとも最近では「自炊」ブームということで各社から良いスキャナーが沢山で回っているようですが、2007 年夏当時は 1 社 1 製品のみだったと思います。

というような苦労を重ねて、2008 年正月に尼崎に転居するまでの半年をかけて、我が家の文献はすべてテキスト付きの PDF 約 100 ギガとなりハードディスクに収まっています。松本清張、世界文学全集から阪神タイガースまで何でも詰め込んでいますが、果たして読み返す暇が見つかるかどうか、はなはだ疑問です。

さてその後ロータリーの文献収集も順調に進み、その「自炊」もかなり進んだので、これらの資料をさらに充実して後世に伝えるために、私一人で抱え込むのではなく、有志のロータリアンに力添えを頂く方がよいと考えて、2010 年 7 月 1 日よの「源流の会」を創立しました。おかげさまで現在 20 名のパストガバナーを含む 250 名の会員でこの会を運営しています。

「源流の会」アーカイブスの内容も徐々に充実し、現在約 6500 冊の蔵書になり、その中には数多くの内外の歴史的文献資料、ロータリアンの著作、地区やクラブの出版物、RI 本部から提供(有償)を受けた 100 年分の The Rotarian と国際大会議事録も含まれています。ただし、著作権の問題がありますので一般公開とはせずに、会員のみ利用にしていますので、<http://genryu.org> にアクセスの上入会手続きを済ませて ID とパスワードを取得してから閲覧してください。

なお皆さまのご協力で、さらに内容を充実させていきたいと考えていますので、お手持ちの文献の提供を宜しくお願い申し上げます。